

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コンピュータ実習Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山村 恭子
授業の概要				
・情報化社会の現在、必須の能力とされているパソコンスキルを習得するため、パソコン演習を通し、パソコンの基本操作を学び、表計算ソフト(Excel)のデータ集計機能、グラフ作成機能、データベース機能を利用し、わかりやすい集計資料などの作成能力を養う				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・Excel表計算処理技能認定試験3級(サーティファイ) 合格 ・Excelを用いて簡単な集計表やデータベース、グラフを作成することができる 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】山村 恭子 <ul style="list-style-type: none"> ・企業研修・国立大学・私立大学・専門学校・職業訓練校などでoffice全般指導 ・建築会社において営業事務兼CADオペレーターとして勤務(社内でofficeを使用しての表計算・社内・社外文書の作成・プレゼン資料の作成など) 		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的、評価方法 Windowsの基本操作 1. Excelの基本 2. データの編集 7. 関数 	※授業の目的と評価方法の説明 Windowsの概要、基本操作(アプリ操作、エクスプローラ)について理解する Microsoft Officeの概要、各ソフトの特徴、Excelの起動・終了、Excelの画面構成 データの入力、データの移動とコピー、数式の入力、ブックの保存 統計関数(SUM関数・AVERAGE関数・MAX関数・MIN関数)		
2	<ul style="list-style-type: none"> 2. データの編集 3. 表の編集 	絶対参照と相対参照、オートフィル 罫線、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除 ページの書式設定、文字の書式設定、字下げ、禁則処理、均等割付 ヘッダーとフッターの設定、印刷イメージの確認方法		
3	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題1、2の問題1と問題2部分の答練 7. 関数 6. ブックの利用と管理	練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する 統計関数(COUNT関数・COUNTA関数) 数学/三角関数(ROUND関数・ROUNDUP関数・ROUNDDOWN関数) ワークシートの管理(シート名の変更)		
4	<ul style="list-style-type: none"> 7. 関数 6. ブックの利用と管理 5. グラフと図形の作成 	統計関数(RANK.EQ関数・RANK.AVG関数) 論理関数(IF関数・OR関数・AND関数) 日付関数(TODAY関数) ワークシートの管理、ウィンドウの操作 グラフの作成、グラフの編集、図形の作成		
5	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題1、2の問題4部分の答練 8. データベース機能	練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する リストの作成、並べ替え、データの抽出、テーブル機能		

回	テーマ	内容		
6	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題1、2の問題3、5部分の答練 4. ブックの印刷	練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定		
7	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題3の答練	練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する		
8	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題1の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
9	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題2の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
10	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題3の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
11	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題4の答練	試験と同じように時間をはかり採点することにより、模擬試験で問題に慣れ、正答率を高める		
12	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題5の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
13	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題6の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
14	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題7の答練	試験と同じように時間をはかり採点することにより、模擬試験で問題に慣れ、正答率を高める		
15	Excel表計算処理技能認定試験3級問題集 3級サーティファイHPからダウンロードしたサンプル問題の答練	試験と同じように時間をはかり採点することにより、模擬試験で問題に慣れ、正答率を高める		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Excel2016クイックマスター基本編(ウィネット) Excel表計算処理技能認定試験3級問題集(サーティファイ)		出席率 課題・レポート 期末試験	20.0% 30.0% 50.0%	検定をもって期末試験とする 【授業準備】 テキストを読み予習しておく

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅲ		動物看護総合学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	10回	1単位(20時間)	必須	三村 梨恵
授業の概要				
サービス接客検定準1級に合格する接客の基本スキルを身につける 接客の基本を学ぶことにより、ペット業界スタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する グループ練習を通して、多様性を理解し、協調性とコミュニケーション力を習得する				
授業終了時の到達目標				
サービス接客検定準1級合格 社会人として必要な基礎的マナーを身につけ、使用できる(敬語・お辞儀) お客様に好感を持たれる接客ができる 他の模範となるような接客ができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		一般企業で接客業(ショールームアドバイザー)として1年 トリマーとして17年の実務経験 接客業の経験をもとに、動物業界での接客に当てはめて、学生が実践しやすいような授業をする。		
時間外に必要な学修				
買い物や外食した際にスタッフの様子を観察し、良いものは取り入れる、悪いものは自分への教訓とする。 保護者や年長者と話して、社会についての知識を得る。 アルバイトをしている場合は、授業で学んだことをアウトプットする場とし、接客スキルを上げる。				
回	テーマ	内 容		
1	授業内容オリエンテーション 検定概要について	授業の目的 検定概要 授業の進め方について 評価方法について 準備物について		
2	基本言動 接客応答	「基本言動」「接客応答」を理解する 検定の流れを理解する 基本言動 「いらっしゃいませ」 「ありがとうございました」 「はい、承知しました」 「いかがでございますか」 接客応答 「お客様、お忘れ物でございますが」 「お客様、お荷物をお預かりいたします」 「どうぞご自由にお持ちくださいませ」 「ご案内いたしますのでこちらへどうぞ」 「ご注文はお決まりになりましたでしょうか」 「こちらのお品物でよろしいでしょうか」		
3	基本言動 接客応答	グループ練習 タブレットで録画し、自分の動作を確認する お客様にどうみられているかを理解する		
4	接客対応	八百屋の店員になって接客をする お客様にあわせた接客ができるようになる		
5	練習	検定と同じレイアウトで練習する グループ練習 検定の流れを理解する タブレットで録画し、復習する		

回	テーマ	内 容		
6	練習	検定と同じレイアウトで練習する グループ練習 検定の流れを理解する タブレットで録画し、復習する		
7	確認テスト	1組確認テスト 2組グループ練習 2組はタブレットで撮影し、Google classroomに提出		
8	確認テスト	2組確認テスト 1組グループ練習 1組はタブレットで撮影し、Google classroomに提出		
9	期末テスト	1組期末テスト 2組グループ練習 2組はタブレットで撮影し、Google classroomに提出		
10	期末テスト	2組期末テスト 1組グループ練習 1組はタブレットで撮影し、Google classroomに提出		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
サービス接遇検定準1級受験ガイド（プリントにて配布） サービス接遇検定2級+準1級 集中レッスン&問題集（プリントにて配布） タブレット		期末試験 確認テスト	90.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ペット美容学 I		動物看護総合学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	吉本 真紀
授業の概要				
座学				
授業終了時の到達目標				
一般社団法人 全国動物専門学校協会 サロントリマー3級取得				
実務経験有無	実務経験内容			
有	実務経験 吉本 真紀:トリマーとして26年 これまでの経験を生かし授業を展開した同時にライセンス試験のための対策も行う。			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~ 2	プードルケネル&ラム	クリッパー実演		
3~ 5	プードルケネル&ラム講義	全体の切り方の注意事項の説明		
6~ 7	プードルマイアミ	絵を書く カットの説明		
8~ 9	プードルボレロマンハッタン	絵を書く カットの説明		
10~ 11	サロントリマー 3級試験対策	過去問題を解きながら対策		
12~ 13	今までのおさらい	仕事で使う事例でのおさらい		
14~ 15	スタンダードに基いて考えるトリミング	骨格などの説明		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
JKCドッググルーミングマニュアル		期末試験	100.0%	授業前に過去問題を復習すること

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
トリミング実習BASIC I		動物看護総合学科/2年	2024/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	森, 三村, 北村, 野崎, 濱野は
授業の概要				
1年次のグルーミング実習の復習とスピードアップ 部分的・簡易的な全身カットに必要な、トリミング技術を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
ペット技能検定協会 トリマー2級合格 2時間以内にグルーミング作業を終わられるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		森 純子 トリマーとして20年 三村梨恵 トリマーとして16年 北村峻也 トレーナー・トリマーとして3年 野崎真優 トリマーとして5年 濱野春菜 トリマーとして4年 豊富な実務経験により様々な犬への対応などのサポート・指導をし学生のロールモデルとなる		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~45	基礎	1年次の復習とスピードアップ 部分的なカットを学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プロが教えるベストトリミング ドッググルーミングマニュアル		出席率 実習・実技評価	10.0% 90.0%	【準備学習】 実習にあたりシ ザーの練習や美容 学の復習をしてお く

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
トリミング実習BASIC II		動物看護総合学科/2年	2024/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	森, 三村, 北村, 野崎, 濱野は
授業の概要				
グルーミング作業の効率・スピードUPを目指す 全身カットに必要な、トリミングの基礎を身に付ける				
授業終了時の到達目標				
トリミング2級試験合格 全身カットができるようになる 犬に負担をかけないような、丁寧な扱いができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	森 純子 トリマーとして20年 三村梨恵 トリマーとして16年 北村峻也 トレーナー・トリマーとして3年 野崎真優 トリマーとして5年 濱野春菜 トリマーとして4年 豊富な実務経験により様々な犬への対応などのサポート・指導をし学生のロールモデルとなる			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~30	基礎 部分的な、簡易カットの取得	お尻・顔等の部分的なカットとバリカンを使用した簡易的なカットの習得		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新ドッググルーミングマニュアル		出席率 実習・実技評価	10.0% 90.0%	【準備学習】 実習にあたりシザーの練習や美容学の復習をしておく

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
トレーニング実習 I		動物看護総合学科/2年	2024/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村尾 智
授業の概要				
犬の集中力・正確さをやしなう				
授業終了時の到達目標				
脚側歩行訓練ができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	【実務経験】 トレーナーとして35年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~5	クリッカー集中	クリッカーを使ったトレーニング		
6~10	脚側行進中の伏臥	正しい位置での伏臥		
11~15	脚側行進中の停座	正しい位置での座れ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】テキストを読んで予習をしておく

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
トレーニング実習Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2024/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村尾 智
授業の概要				
犬の集中力・正確さをやしなう				
授業終了時の到達目標				
脚側歩行訓練ができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	【実務経験】 トレーナーとして35年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~5	クリッカー集中	クリッカーを使ったトレーニング		
6~10	脚側行進中の伏臥	正しい位置での伏臥		
11~15	脚側行進中の停座	正しい位置での座れ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 出席率	50.0% 50.0%	【準備学習】テキストを読んで予習しておく

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生命倫理・動物福祉		動物看護総合学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	長尾 美花
授業の概要				
生命倫理の考え方および動物愛護・動物福祉について学ぶ				
授業終了時の到達目標				
<p>言葉をもたない動物を扱うにあたり倫理観を書くことはできないため、動物愛護と動物福祉の違いを説明できるようになる。</p> <p>そして、資格が出来るに至る歴史やプロセスを理解し、自己研鑽を欠かしてはならないことを理解し愛玩動物看護師として人と動物の関係に上手に介入できる知識を習得する。</p> <p>人と動物の共生社会をリードする存在になる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院において22年間動物看護師として勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス		
2	生命倫理の概念	倫理とは何か、生命倫理と獣医療の関わりについて学ぶ		
3~4	動物福祉の概念	動物福祉の考え方について理解する		
5~6	愛玩動物の福祉	愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題について理解する		
7~8	産業動物の福祉	産業動物における福祉上の問題について理解する		
9~10	実験動物の福祉	実験動物における福祉上の問題について理解する		
11~12	展示動物の福祉	展示動物における福祉上の問題について理解する		
13~14	愛玩動物看護師の倫理	動物看護師倫理綱領について理解する		
15	期末テスト	期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻 (Eduward Press)		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物栄養学 I		動物看護総合学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	齋藤 小百合

授業の概要

動物が家族の一員として位置づけられ、人と生活を共にする動物の「食」を取り巻く環境は大きく変わり、病気の動物を治療することが獣医療の目的であるが、むしろ病気の予防や病気にならない環境作り、さらには健康を推進することが動物看護師の大きな役割と言える。本教科では、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。

授業終了時の到達目標

栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。

実務経験有無 実務経験内容

有	動物看護師として、7年間動物病院に勤務
---	---------------------

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	動物栄養学総論	基礎栄養素とイヌネコの必要栄養素の違い、適切な食事管理を理解する
2	基礎栄養学	動物栄養学の中の基本を知る
3	基礎栄養素 水	動物に必要な栄養素の中の水について学ぶ
4	基礎栄養素 タンパク質	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ
5	基礎栄養素 炭水化物	動物に必要な栄養素の中の炭水化物について学ぶ
6	基礎栄養素 脂肪	動物に必要な栄養素の中の脂肪について学ぶ
7	基礎栄養素 ミネラル	動物に必要な栄養素の中のミネラルについて学ぶ
8	基礎栄養素 ビタミン	動物に必要な栄養素の中のビタミンについて学ぶ
9	イヌとネコの栄養要求の違い	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について学ぶ
10	ライフステージ別の栄養管理①	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
11	ライフステージ別の栄養管理②	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
12	ライフステージ別の栄養管理③	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
13	ライフステージ別の栄養管理④	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
14	ライフステージ別の栄養管理⑤	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験	期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	臨床栄養指導認定動物看護師試験教本（インターズー）	期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物栄養学Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	齋藤 小百合

授業の概要

動物が家族の一員として位置づけられ、人と生活を共にする動物の「食」を取り巻く環境は大きく変わり、病気の動物を治療することが獣医療の目的であるが、むしろ病気の予防や病気にならない環境作り、さらには健康を推進することが動物看護師の大きな役割と言える。本教科では、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。

授業終了時の到達目標

栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。

実務経験有無 実務経験内容

有	動物看護師として、7年間動物病院に勤務
---	---------------------

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	動物栄養学総論	基礎栄養素とイヌネコの必要栄養素の違い、適切な食事管理を理解する
2	基礎栄養学	動物栄養学の中の基本を知る
3	基礎栄養素 水	動物に必要な栄養素の中の水について学ぶ
4	基礎栄養素 タンパク質	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ
5	基礎栄養素 炭水化物	動物に必要な栄養素の中の炭水化物について学ぶ
6	基礎栄養素 脂肪	動物に必要な栄養素の中の脂肪について学ぶ
7	基礎栄養素 ミネラル	動物に必要な栄養素の中のミネラルについて学ぶ
8	基礎栄養素 ビタミン	動物に必要な栄養素の中のビタミンについて学ぶ
9	イヌとネコの栄養要求の違い	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について学ぶ
10	ライフステージ別の栄養管理①	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
11	ライフステージ別の栄養管理②	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
12	ライフステージ別の栄養管理③	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
13	ライフステージ別の栄養管理④	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える
14	ライフステージ別の栄養管理⑤	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験	期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	臨床栄養指導認定動物看護師試験教本（インターズー）	期末試験 授業態度	80.0% 20.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物病理学		動物看護総合学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	田上 真紀
授業の概要				
動物看護において、動物がどのような状況にあり、どのような看護が必要かは、発生のメカニズムと病理学的特徴を理解することから始まる。ついでには、生理機能の障害からどのように病気が発生し、どのように変化し、どのように回復していくのかを理解する。さらに、病気の特徴や分類、名称、物理学的検査方法などの病理学専門用語を用いて学ぶ。一般的な正常と異常の違いは、加齢による組織変化や生理機能の違い、動物種による病変の違いなどを理解し、動物看護に活かす。これらのことを理解するために、病気の成り立ち、細胞の死滅、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、先天異常、免疫異常、老齢性病変、腫瘍などの項目について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
授業概要に含む				
実務経験有無	実務経験内容			
有	獣医師として10年、動物病院に勤務			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	動物病理学の概要 病気の変遷、成り立ちと変遷	動物病理学を学ぶ意義を理解し、病気の変遷と動物看護学の関連を知る		
2	細胞の死	動物病理学における細胞の死を学ぶ		
3	循環障害①	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ		
4	循環障害②	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ		
5	退行性病変①	動物病理学に関する退行性病変について学ぶ		
6	退行性病変②	動物病理学に関する退行性病変について学ぶ		
7	進行性病変①	動物病理学における進行性病変について学ぶ		
8	進行性病変②	動物病理学における進行性病変について学ぶ		
9	炎症①	動物病理学における炎症について学ぶ		
10	炎症②	動物病理学における炎症について学ぶ		
11	炎症③	動物病理学における炎症について学ぶ		
12	先天異常	動物病理学における先天異常について学ぶ		
13	免疫異常	動物病理学における免疫異常について学ぶ		
14	老齢性病変	動物病理学における老齢性病変について学ぶ		

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験	期末試験の実施		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	動物看護コアテキスト3(動物の疾病と予防および回復) ファームプレス 系統看護学講座(病理学) 医学書院 系統看護学講座(病態生理学) 医学書院	期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物感染症学Ⅲ		動物看護総合学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	鈴木 ひとみ

授業の概要

伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫について、それらの特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病原体についての理解が必要である。「動物感染症学Ⅱ」では、動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を習得する。主にイヌネコに感染する内部寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法、予防法を学び、飼い主に寄生虫感染予防の大切さを伝えられるようにする。

授業終了時の到達目標

病原微生物による感染症について飼い主に説明ができるようになる。
 感染症の予防の重要性を飼い主に説明できるようになる
 ワクチンについて理解し、飼い主にその必要性、注意点が説明できるようになる
 感染症の予防について正しい技術と知識を身に付け、実践できるようになる

実務経験有無	実務経験内容
有	獣医師としての10年の実務経験

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	動物病原体	動物病原体について復習する
2	病原性について	病原微生物の病原性について学習する
3	感染症の予防①	感染の成り立ちに必要な要因から感染予防について考える
4	感染症の予防②	〃
5	感染症の予防③	〃
6	ワクチン①	ワクチンとは何かを学習する
7	ワクチン②	生ワクチンと不活化ワクチンについて学習する
8	ワクチン③	ワクチンの必要性について学習する
9	ワクチン④	ワクチンの効果と副作用について学習する
10	ワクチネーションプログラム①	イヌのワクチネーションプログラムについて学習する
11	ワクチネーションプログラム②	ネコのワクチネーションプログラムについて学習する
12	寄生虫の感染予防①	内部寄生虫の感染予防について学習する
13	寄生虫の感染予防②	外部寄生虫の感染予防について学習する
14	まとめ	感染予防について全般的な復習

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験	期末試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	動物看護コアテキスト3(ファームプレス) 基礎動物看護学3 動物感染症学(インターズー)	期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
公衆衛生学 I		動物看護総合学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	吉本 由紀子
授業の概要				
<p>公衆衛生は、ヒトと動物の全てを対象とした分野であり、獣医療に関わるうえでも重要な分野である。また、関連するさまざまな環境要因とヒトの健康である疾病予防、早期発見、健康維持および増進に役立てる総合的な学科学目である。ヒトと動物の共生などを対象とする科目では、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生があり、滅菌と消毒、動物防疫学についても学習する。将来、動物看護師として動物病院で勤務する際に衛生面で注意すべきことを理解し、飼い主への飼育・衛生管理指導に活かすよう学習する。</p>				
授業終了時の到達目標				
公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		香川県内の動物病院で6年の勤務、現在はペットショップで勤務する		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	公衆衛生学概論①	動物看護と公衆衛生の関係性を考え、公衆衛生の目的と活動を理解する		
2	公衆衛生学概論②	動物看護公衆衛生の活動領域について学ぶ		
3	人獣共通感染症とは	人獣共通感染症の定義と現状を知る。また新興感染症と再興感染症の発生要因。		
4	伝播様式、予防対策	人獣共通感染症の動物から人への感染様式と、予防対策について学ぶ		
5	動物由来の主な人獣共通感染症	イヌ、ネコ、サル類、げっ歯類の主な人獣共通感染症にはどのようなものがあるかを学ぶ		
6	ウイルスによる人獣共通感染症①	ウイルスによる主な人獣共通感染症に入る前に、ウイルスの性状について振り返る		
7	ウイルスによる人獣共通感染症②	ウイルスによる人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ(狂犬病、高病原性鳥インフルエンザ)		
8	ウイルスによる人獣共通感染症③	ウイルスによる人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ(日本脳炎、ニューカッスル病、ウエストナイル熱)		
9	ウイルスによる人獣共通感染症④	ウイルスによる人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ(エボラ出血熱、Bウイルス病、ニパウイルス感染症)		
10	ウイルスによる人獣共通感染症⑤	ウイルスによる人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ(重症急性呼吸器症候群SARS, 牛海綿状脳症)		
11	細菌による人獣共通感染症①	細菌による主な人獣共通感染症に入る前に、細菌の性状について振り返る		
12	細菌による人獣共通感染症②	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ(レプトスピラ症、パストレラ症、カンピロバクター症、ブルセラ症、)		

回	テーマ	内 容		
13	細菌による人獣共通感染症③	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ（サルモネラ症、腸管出血性大腸菌感染症、炭疽、野兔病、結核）		
14	細菌による人獣共通感染症④	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ（破傷風、細菌性赤痢、ペスト、猫引っかき病、Q熱、オウム病、ツツガムシ病、ライム病）		
15	期末試験	期末試験を実施する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護の教科書（緑書房）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物外科看護学 I		動物看護総合学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	須崎, 久保
授業の概要				
外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		香川県内に動物病院を開院し、院長として勤務。これまでの臨床経験や場面を教材とし指導する		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~3	外傷・創傷管理	外傷および創傷管理について学ぶ		
4	術前準備①	<ul style="list-style-type: none"> 術前準備および術前検査について学ぶ 無菌的処置の重要性について学ぶ 		
5	術前準備②	<ul style="list-style-type: none"> リネン類について学ぶ 手術器具の種類、準備の仕方を学ぶ 		
6~7	術前準備③	<ul style="list-style-type: none"> 手術台の準備と動物の適切なポジショニングを学ぶ 術野の消毒について学ぶ 手洗い、手術着、手袋の着用法について学ぶ 		
8	麻酔管理①	麻酔処置時における動物看護師の役割について学ぶ		
9	麻酔管理②	麻酔リスクの評価(ASA分類)について学ぶ		
10	麻酔管理③	<ul style="list-style-type: none"> 麻酔前投与について学ぶ 注射麻酔について学ぶ 		
11	麻酔管理④	<ul style="list-style-type: none"> 吸入麻酔について学ぶ 麻酔導入時、覚醒時のリスクと対処法について学ぶ 		
12~13	麻酔管理⑤	<ul style="list-style-type: none"> 麻酔看視項目の監視方法、目的について学ぶ 麻酔記録の作成法を学ぶ 		
14	まとめ	これまでのまとめを行う		
15	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 動物看護実習テキスト(インターズー) 周術期の動物看護パーフェクトナビ(インターズー) 動物看護師のための麻酔超入門(インターズー) 		期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物外科看護学Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	須崎, 久保
授業の概要				
外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		香川県内に動物病院を開院し、院長として勤務。これまでの臨床経験や場面を教材とし指導する		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~3	術中補助①	代表的な手術器具の名称と使用法を学ぶ		
4~5	術中補助②	代表的な縫合材の分類と使用法について学ぶ		
6	術中補助③	代表的な歯科器具の名称と使用法について学ぶ		
7	術中補助④	術中における直接補助・間接補助の内容について学ぶ		
8~9	術後管理①	<ul style="list-style-type: none"> ・麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて学ぶ ・疼痛管理の意義と目的について学ぶ 		
10	術後管理②	<ul style="list-style-type: none"> ・術創管理と包帯法について学ぶ ・退院時の注意点と飼い主への説明の仕方を学ぶ 		
11	救急救命①	エマージェンシーの原因と病態について学ぶ		
12	救急救命②	<ul style="list-style-type: none"> ・一次救命措置(BLS)について学ぶ ・二次救命措置(ALS)について学ぶ 		
13	救急救命③	気管挿管と心肺蘇生の方法について学ぶ		
14	まとめ	これまでのまとめを行う		
15	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・動物看護実習テキスト(インターズー) ・周術期の動物看護パーフェクトナビ(インターズー) ・動物看護師のための麻酔超入門(インターズー) 		期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物臨床看護学各論 I		動物看護総合学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	齋藤 小百合
授業の概要				
<p>動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで動物の補助や飼い主を支える専門職として、重要な役割を果たすようになってきている。そのためには獣医師の職域とは異なる動物看護師の視点で動物を見られるようになることが必要である。「臨床動物看護学各論」では、動物看護学で学んだ概要を再度復習し、動物看護師の役割、目的などを振り返る。動物看護師としての観察、記録、コミュニケーション、補助技術と共に獣医学の種々の知識が必要であることは言うまでもない。人の言葉を話せず、習性や生態もちがう動物の心理的な状態を予測すること、看護動物を取り巻く社会的な影響として環境や飼い主家族の特徴をとらえることは、家庭でのお世話を継続して貰うために非常に大切である。チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。</p>				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院にて7年勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~2	動物看護学概論	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護について学び直す		
3~4	動物看護学概論2	動物看護技術の要素とは何かを知ることにより看護技術について知ることができる		
5~6	動物看護学概論3	動物看護技術の要素とは何かを知ることにより看護技術について知ることができる		
7~8	動物看護師の倫理綱領	「動物看護師の倫理綱領2009」について学ぶ		
9~10	動物看護技術の基盤	動物看護を遂行する動物看護師に必要な技術について		
11~12	動物看護技術の基盤2	動物看護を遂行する動物看護師に必要な技術について		
13~14	動物看護技術の基盤3	動物看護を遂行する動物看護師に必要な技術について		
15	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護の教科書(緑書房)		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物臨床看護学各論Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	齋藤 小百合
授業の概要				
様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ、動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。				
授業終了時の到達目標				
動物の主な疾患の看護について実践でき、また飼主に疾病の予防を説明できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として、7年間動物病院に勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	消化器の病気5	腸の疾患 タンパク漏出性腸症、炎症性腸疾患、食事反応性下痢、抗菌薬反応性下痢、腸リンパ管拡張症		
2	消化器の病気5	消化管内異物・腸閉塞・腸重積		
3	消化器の病気5	胃の疾患 胃拡張胃捻転症候群・幽門狭窄・胃炎		
4	消化器の病気5	食道の疾患 (右大動脈弓遺残含む)		
5	消化器の病気5	口腔の疾患 1 歯の形態機能(復習) 不正咬合、乳歯遺残、口蓋裂・歯周病		
6	消化器の病気5	ヘルニア(臍・鼠径・会陰・横隔膜)		
7	消化器の病気5	肝臓疾患 肝炎、肝硬変、肝リポドーシス		
8	消化器の病気5	門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫		
9	消化器の病気5	膵炎、膵外分泌不全		
10	循環器疾患	循環器系: 心臓の構造と働き(復習)		
11	心臓の疾患	僧帽弁閉鎖不全 犬糸状虫症		
12	心臓の疾患	動脈管開存		
13	前期の復習	おさらい		
14	復習テスト	復習テストの実施		
15	期末テスト	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパニオンアニマルの健康管理学 ・くわしい犬の病気大図典 	期末試験 確認テスト	80.0% 20.0% 復習を確認テスト で行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物臨床検査学		動物看護総合学科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	安藤 雄治
授業の概要				
様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として15年、動物病院に勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	臨床検査 概論①	<ul style="list-style-type: none"> 臨床検査における愛玩動物看護師の役割について学ぶ 臨床検査における、基準値、感度、特異度、精度管理について学ぶ 		
2	臨床検査 概論②	検体採取法について学ぶ		
3	血液検査①	<ul style="list-style-type: none"> 血漿、血清の分離法について学ぶ 全血球計算法(CBC)について学ぶ 		
4~6	血液検査②	血液塗抹の作成および観察法について学ぶ		
7	血液検査③	ヘマトクリット管を用いた検査について学ぶ		
8~9	血液検査④	血液生化学検査の目的と意義について学ぶ		
10	血液検査⑤	血液凝固検査・血液ガス検査の目的と意義について学ぶ		
11	血液検査⑥	血液免疫学的検査の目的と意義について学ぶ		
12~13	尿検査	<ul style="list-style-type: none"> 尿の性状検査について学ぶ 尿沈渣について学ぶ 		
14	まとめ	これまでのまとめを行う		
15	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
臨床動物看護学②「動物臨床検査学」(エデュワードプレス)		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人と動物の関係学		動物看護総合学科/2年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	長尾 美花
授業の概要				
<p>犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技などを修得する。 内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録などについて理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>1) 動物の基本的な取り扱いができ、一般身体検査全般ができる 2) 診察準備や衛生管理、保定、その他診療補助ができる 3) 輸液や薬剤投与など内科診療技術を修得する 4) 基本的な看護の基礎知識・技術を身に付ける。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		香川県内の動物病院にて2年間動物看護師として勤務		
時間外に必要な学修				
動物と触れ合うときには常に観察を忘れず、動物に負担をかけない持ち方を意識する。				
回	テーマ	内容		
1	保定の基礎	保定の基礎知識、保定の種類、保定に使用する道具		
2	病気の予防について RVについて	病院で行う予防できる病気について		
3	入院管理①	入院管理 (GW) (入院環境の適正管理)		
4	入院管理②	入院管理 (GW) (状況別看護)		
5	入院管理③	入院管理 (GW) (幼齢動物・老齢動物管理)		
6	応急処置	応急処置		
7	投薬	錠剤、粉薬、目薬 など投薬方法		
8	輸液①	輸液について (皮下点滴)		
9	輸液②	輸液について (静脈点滴)、輸液ポンプ、留置針		
10	輸液③	輸液量の計算		
11	穿刺・吸引、酸素吸入	穿刺・吸引について、酸素吸入について		
12	血液検査	血液検査について、採血と保定		
13	保定	犬猫の駆血保定		
14	留置針練習	留置確保の練習		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容	
	動物看護実習テキスト第3版 (EDUWARD Press)	期末試験 出席率	80.0% 20.0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物内科看護実習Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2024/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	齋藤小,長尾
授業の概要				
講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身につける。 また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。 動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
修得した知識の実践力を身につける				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として22年間、動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	保定・注射薬充填	1年時の復習		
2	狂犬病注射実施	狂犬病注射実施時の看護師の役割を果たす皮下注射・皮内注射・筋肉内注射の部位を学び、注射時の保定の手技を身につける犬猫の取扱いを知り、基本的な保定法を身につける		
3~5	輸液管理	輸液の目的を理解し、適切な準備接続および操作方法が実践できる		
6~7	採血・駆血	採血時の保定に必要な解剖生理学を学ぶ		
8	注射薬充填	アンプル薬の取扱いができる		
9	滅菌	器具の滅菌について理解し実施できる		
10	手術器具	手術器具を理解し適切に使用できる		
11	検体処理	検体の適切な取り扱いを身につける		
12	実技試験練習	実技試験練習		
13	実技テスト	実技テスト		
14	まとめ	前期まとめ		
15	期末テスト	期末テストを実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物内科看護実習Ⅲ		動物看護総合学科/2年	2024/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	齋藤小,長尾
授業の概要				
<p>「動物看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」での実践能力に応用力を用いて診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。</p> <p>全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようになる。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、できるだけ受診動物に負担がなく、かつスムーズな診察・処置が行えるよう、サポートができるように習得する。また、手術関連業務として外科手術に必要な「術前準備と術後業務」「麻酔器・モニター機器」までの意義を理解し、機器の管理・備品の準備・正確な手技をマスターし適切な取り扱いができるようになる。動物の状態観察および看護に努め、院内・犬舎・猫舎・入院舎の衛生管理に努め、滅菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。</p>				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として22年間、動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	バイタルチェック	イヌとネコの全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告の仕方を学ぶ		
2	衛生管理・入院管理	感染の定義と感染症を理解し、滅菌・消毒・殺菌への理解を深める。また、感染の予防の実践の仕方を学ぶ		
3	手術関連業務①	リネン類・手術器具の種類と用途目的を理解し適切な管理と準備を学ぶ		
4	手術関連業務②	縫合糸の種類と特性、用途目的を理解する。また、適切な滅菌作業と管理運用を学ぶ		
5	術前術後の看護①	気管挿管、血管確保の目的を理解し、準備と補助の手技を学ぶ		
6	術前術後の看護②	術前・中・後の輸液の目的を理解し、準備と接続、輸液管理の手技を学ぶ		
7	術前術後の看護③	術野の毛刈りと消毒の手技を学ぶ		
8	術前術後の看護④	手洗いおよび術着、手袋の着用の手技を学ぶ		
9	術前術後の看護⑤	術前術後看護①～④までの復習 術野の毛刈り・消毒、手洗いおよび術着・手袋の着用の手技を実践する		
10	術前術後の看護⑥	術創の保護を学び、術後のバイタルチェックの報告と記録、状況に応じた動物管理を学ぶ		
11	麻酔モニタリング①	麻酔器の仕組みを理解し適切に接続できる手技を身に付ける		
12	麻酔モニタリング②	モニター機器の仕組みを理解し適切な装着接続を学ぶ モニター数値の正常値・異常値を把握し理解する		
13	麻酔モニタリング③	術中のバイタルチェックの監視報告と状況に応じた動物管理を学ぶ		

回	テ ー マ	内 容		
14	麻酔モニタリング④	麻酔機器を獣医師の指示のに基づき操作してみる		
15	期末試験	期末試験を実施		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	動物看護実習テキスト（インターズー）	期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物臨床検査学実習 I		動物看護総合学科/2年	2024/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	安藤 雄治
授業の概要				
<p>診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につけ、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。採取した検体を用いた検査では、尿検査・糞便検査および血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。また、生体検査では、基礎的身体一般検査・X線検査・心電図検査と血圧測定・超音波検査・内視鏡検査・神経学的検査・CT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。</p> <p>【実務経験】高尾ひとみ：獣医師として9年の実務経験。これまでの臨床経験を活かし、分かりやすくイメージしやすいように授業を展開する</p>				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		県内の動物病院で動物看護師として15年勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	臨床検査概論	臨床検査の意義を理解し、基本的手技を身につける。また、看護実践能力を身につける。		
2	検体処理概論	検体の適切な取り扱いを身につける		
3	検体処理① 血液採取法・保存法	血液採取法と各成分に応じた保存法について理解できる		
4	検体処理 尿の採取・保存法	尿の採取法と保存法を理解できる		
5	検体処理 採便法・保存法	採便法と保存法を理解できる		
6	顕微鏡	適切な顕微鏡の操作法および取り扱いを身につける		
7	顕微鏡 2	正しい操作と基本的なメンテナンス法が理解できる		
8	血液検査	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
9	血液検査 2	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
10	血液検査 3	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
11	血液検査 4	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
12	尿検査	尿検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
13	尿検査 2	尿検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		

回	テ ー マ	内 容		
14	糞便検査	糞便検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
15	糞便検査2	糞便検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー）		期末試験	100.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物臨床検査学実習Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2024/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	安藤 雄治

授業の概要

診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につけ、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。採取した検体を用いた検査では、尿検査・糞便検査および血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。また、生体検査では、基礎的身体一般検査・X線検査・心電図検査と血圧測定・超音波検査・内視鏡検査・神経学的検査・CT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。

【実務経験】高尾ひとみ：獣医師として9年の実務経験。これまでの臨床経験を活かし、分かりやすくイメージしやすいように授業を展開する

授業終了時の到達目標

授業概要に記載

実務経験有無	実務経験内容
有	県内の動物病院で動物看護師として15年勤務

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	眼科検査	診療現場で主に行われる眼科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける
2	眼科検査2	診療現場で主に行われる眼科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける
3	耳の検査	診療現場で主に行われる耳の検査の意義を理解し、適切な手技を身につける
4	耳の検査2	診療現場で主に行われる耳の検査の意義を理解し、適切な手技を身につける
5	皮膚科検査	診療現場で主に行われる皮膚科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける
6	皮膚科検査2	診療現場で主に行われる皮膚科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける
7	内視鏡検査	内視鏡検査の原理と方法、意義を理解できる
8	内視鏡検査	内視鏡検査の原理と方法、意義を理解できる
9	神経学的検査	神経学的検査の方法と意義を理解できる
10	神経学的検査2	神経学的検査の方法と意義を理解できる
11	CT・MRI検査	コンピュータ断層撮影法(CT)と磁気共鳴画像法(MRI)の原理と手技について理解できる
12	CTの・MRI検査2	コンピュータ断層撮影法(CT)と磁気共鳴画像法(MRI)の原理と手技について理解できる
13	血液検査	CBC・生化学検査を基本に診療現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける

回	テ ー マ	内 容		
14	血液検査 2	CBC・生化学検査を基本に診療現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
15	血液検査 3	CBC・生化学検査を基本に診療現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー）		期末試験	100.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物外科看護学実習 I		動物看護総合学科/2年	2024/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	須崎, 久保
授業の概要				
<p>周術期の術前・術中・術後において動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を習得する。</p> <p>看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また麻酔が円滑に行われるためには、日ごろからの手術器具、機材の管理が必要となる。周術期における手術助手として必要な知識と技術を習得する</p>				
授業終了時の到達目標				
授業概要に含まれる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		香川県内に動物病院を開院し、院長として勤務。これまでの臨床経験や場면을教材とし指導する		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	手術補助	外科手術の流れ		
2	器具・機材の準備①	手術器具		
3	器具・機材の準備②	縫合材料(糸と針)		
4	器具・機材の準備③	ドレープ類・ガウンの意義		
5	器具・機材の準備④	電気メス		
6	器具・機材の準備⑤	器具の滅菌・管理		
7	避妊・去勢手術	外科手術を補助するための必要な基礎知識		
8	麻酔前評価	術前の患者動物の評価		
9	まとめ①	外科看護技術の修得		
10	術前の準備	手術室の準備(日常から当日まで)		
11	術者の準備①	手指の消毒法		
12	術者の準備②	ガウン・グローブ装着方法		
13	動物の準備①	術野の準備		
14	動物の準備②	ドレープのかけ方		

回	テーマ	内 容		
15	血管確保	血管確保の準備・手順		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー） 周術期の動物看護パーフェクトナビ（インターズー） 動物看護師のための麻酔超入門（インターズー）		期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物外科看護学実習Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2024/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	須崎,久保

授業の概要

周術期の術前、術中、術後において動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を習得する。

看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また日ごろからの手術器具、機材の管理が必要となる。周術期における手術助手として必要な知識と技術を習得する

授業終了時の到達目標

授業概要に含まれる

実務経験有無	実務経験内容
有	香川県内に動物病院を開院し、院長として勤務。これまでの臨床経験や場面を教材とし指導する

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	麻酔前評価	術前の看護動物の評価
2	麻酔維持	モニタリングの目的
3	動物のモニター①	五感を使ったモニター方法①
4	動物のモニター②	五感を使ったモニター方法②
5	麻酔のモニター①	換気のモニター
6	麻酔のモニター②	酸素化のモニター
7	血液循環	血液循環とは
8	血液循環のモニター①	心電図モニター
9	血液循環のモニター②	心電図モニター
10	血液循環モニター③	血圧のモニター
11	血液循環モニター④	血圧のモニター
12	その他のモニター①	体温のモニター
13	その他のモニター②	尿量モニター
14	麻酔記録	麻酔記録の意義
15	麻酔覚醒①	麻酔覚醒とは

回	テーマ 教科書・教材	内容		
		評価基準	評価率	その他
	動物看護コアテキスト6「動物看護の実践」ファームプレス 専門分野「動物外科看護技術」インターズー	期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動物看護総合実習Ⅱ		動物看護総合学科/2年	2024/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	齋藤 小百合
授業の概要				
動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い知識を身に付ける				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 動物病院の概要(地域特性、診療方針、スタッフの構成等)を理解し、自身が動物病院でどのように加わるかを考える 学校で修得した知識や技術が動物看護業務を実践する上で必須であることを理解する 飼い主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習する中で、円滑な人間関係を築くために必要な技術や能力を修得する 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として、7年間動物病院に勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~6	体験型実習	オリエンテーションを受け、実習を通して実際の動物看護業務を体験し、その職務内容を理解する		
7~12	体験型実習	可能な範囲で行う実習項目において、動物看護師としての業務・役割を果たす		
13~18	体験型実習	チームで行う愛玩動物に対する医療は、獣医師・動物看護師・スタッフ全員がそれぞれの役割を担いつつ、協力し合うことで最善の成果を出せることを理解し、良好なコミュニケーションを構築する		
19~24	体験型実習	動物愛護の精神・言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について理解する		
25~30	体験型実習	学内でのカリキュラムや各教科と、動物病院における実際の動物看護業務との関連について認識を深める		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 出席率	90.0% 10.0%	・「動物看護総合実習」の成績評価については、インターンシップ評価表の結果をもとに点数化し評価する